

僕の考えるグローバル化

岐阜大学教育学部附属小中学校

9年 可知 裕基（かち ゆうき）

教科書には、「グローバル化」とは人や物、お金、情報などの移動が国境を越えて、地球規模に広がっていくこと、（世界の一体化）と書いてあります。

でも、僕にはピンときません。グローバル化、グローバル化と叫ばれていますが、自分のまわりを見ても、グローバル化が進んでいると感じることはありません。それどころか、このままで対応できるのだろうかという不安すらあります。

では、これから何を意識し、何を心掛けながら僕たちは成長していけるのだろうか、ふと思う時があります。

僕には、ニューヨークに住む「タハ」という一歳上のいとこがいます。彼はよく「裕基はこれについてどう思う？」とストレートに質問してきます。また、「裕基の言っていることはよくわからない。」と即座に行ってきます。僕が初めて日本人とアメリカ人の違いを認識した瞬間で、本当にびっくりして戸惑いました。

日本人とアメリカ人はいろいろな面で違います。日本人ははっきりと言い切りませんよね。だから、相手の言いたいことの半分以上をその場の雰囲気から読み取らなければなりません。そのため、日本人はひかえめで空気を読むということが得意です。忖度という言葉まで流行しました。

一方、アメリカの人々は、自分の考えに自信をもっており、主張が強く、ストレートに意見を言います。

日本人は「平均的なものもいい」と考えるのに対してアメリカの人々は、「他の人よりも少しでも上に行きたい。」というように、考え方にも違いがあります。このように、日本とアメリカには、やはり「文化の違い」というものがあります。新型コロナウイルスに対する各国の対応を見ても、一目瞭然です。世界の国々ではロックダウンという政策をとり、一時的に人の流れを押さえた国もありました。一方、日本は外国のようなロックダウンを行えないため、国民にお願いをする政策を取らざるを得ませんでした。それでも日本人はしっかりとマスクを着用し、日本人の道徳性の高さのおかげで、ここまでこれています。少しスピードは遅いかもしれませんが、確実に進む先に光は見えています。その反面、新型コロナウイルスのパンデミックを通して、日本という単体の国では、もう、どうしようもできないことが分かりました。

ワクチンにしても、その他の物資にしても同じことが言えると思います。つまり、他国の良さや自国の良さを共有しあって、互いに助け合っていく必要があるということです。そう考えると、グローバル化の進むこの世の中では、やはり海外の人と力を合わせる大切だと思います。

海外を相手にする場合、この「文化の違い」に戸惑いを感じることはあるはずですが、戸惑ったからと言って相手に合わせる必要はありません。日本人だからこそ持っている素晴らしい良さを捨てる必要はないと思います。

では、何が必要なのでしょうか。僕は日本人の「空気を読む」という文化を大切にしながらも、アメリカの人々のように自己主張する方に移行すべきだと考えます。

「リーダーに言われたから」ではなく、「私はこうしたい!」と、上下関係に関係なく「こうやってみたい」と主張すべきではないでしょうか。そうすることで、他国と共存していくことができると考えます。

そして、主張していくためには、まず相手を知ることが必要です。人にはそれぞれ価値観をもつに至った背景があります。それが考え方に違いをもたらす原因です。相手を認めつつ、自分の意見を主張するためには、相手の背景を知ったうえで、議論を進めていく必要があると思います。そして、それができれば、よりよい結論を導き出すことができるはずですが、これからの僕たちには、こういう感覚が必要だと思います。

しかし、今の日本を見ていると、まだまだ周りに合わせるだけで、なかなか自分の意見を言えません。そうではなく、自分の軸をもって自己主張することこそ、今の僕たちに必要なのではないのでしょうか。そのために僕たちは、まず学校の中から変えていく!そんな一人一人の挑戦がこの日本を変えるきっかけになると 생각합니다。

まずは、勇気を持って一歩踏み出そう!そしてこの日本を変えよう!